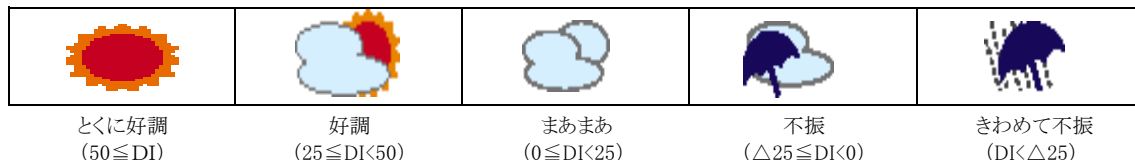


# 1. 平成30年10月～12月期の景気動向

今期のDI平均値は△20.6ポイントで、前期7～10月期の△32.2ポイントから11.6ポイントプラスとなった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 33) 	△ 18 (△ 31) 	△ 23 (△ 35) 	△ 20 (△ 28) 	0 (△ 11) 	△ 33 (0) 	△ 40 (△ 50) 	△ 45 (△ 36) 	△ 29 (△ 17) 	△ 23 (△ 23) 
採算		△ 32 (△ 44) 	△ 44 (△ 44) 	△ 30 (△ 37) 	△ 22 (△ 30) 	△ 33 (△ 11) 	△ 22 (△ 11) 	△ 40 (△ 50) 	△ 38 (△ 42) 	△ 47 (△ 29) 	△ 38 (△ 41) 
資金繰り		△ 6 (△ 12) 	△ 19 (△ 32) 	△ 21 (△ 32) 	△ 18 (△ 28) 	△ 11 (△ 11) 	△ 11 (△ 11) 	△ 32 (△ 23) 	△ 29 (△ 28) 	△ 29 (△ 31) 	△ 25 (△ 31) 
業況		△ 32 (△ 32) 	△ 40 (△ 27) 	△ 13 (△ 29) 	△ 24 (△ 8) 	0 (△ 22) 	△ 33 (△ 12) 	△ 29 (△ 46) 	△ 34 (△ 44) 	△ 29 (△ 32) 	△ 18 (△ 13) 
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	2位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		販売単価の低下		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	3位	下請け業者の確保難		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		購買力の他地域への流出		人件費の増加	
業種別 コメント		<p>今期状況は売上、業況とも横ばいとなった。受注量の減少には歯止めが掛かっているが、人手不足に加え、下請け業者の高齢化による規模縮小、廃業等が増加し、業者の確保が厳しくなっている他、依然として民間・官公庁の需要の停滞が大きな問題となっている。</p>		<p>今期は全ての項目でプラスとなっている。依然として需要の停滞や原材料価格の上昇により、経営状況は厳しい。生産設備の老朽化に伴い、今期から来期にかけて修繕等の設備投資を行う事業所も多く、今後は業務の効率化による採算面の改善がさらに必要である。</p>		<p>今期は売上、業況共に大幅に回復したが、仕入価格の上昇が続く、採算が合わない事業所が多い。来期は受注、引き合い数が伸び悩んでいることから大幅に悪化する見通しとなっており、しばらくは業況の変動が激しく不安定な状況が続くそうである。</p>		<p>年末商戦により今期は売上、業況共に持ち直しを見せたが、売上が増加した事業所は全体の2割程度にとどまっている。インターネットの普及による消費者の買物スタイルの変化に、小売業は特に影響を受けやすく、今後も対面販売ならではの良さを前面に打ち出して行く必要がある。</p>		<p>災害や天候不順による仕入単価の上昇に加え、人件費の増加など、抑えられない出費が多く、利益を圧迫している。しかし、今期業況はほぼ横ばいとなった。年末年始はかき入れ時であり、業況を好転させる機会である。競合他社との差別化を図り、固定客はもちろん、新規顧客獲得に向けたサービスが必要である。</p>	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値